



大学院だより



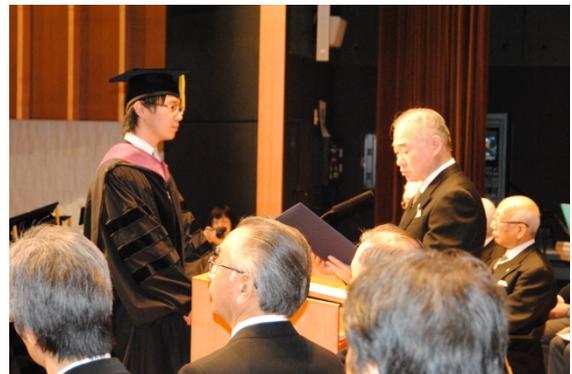
修了式を終え晴れやかな笑顔の大学院生。矢崎同窓会長および大学院関係者と共に

大学院修了式

平成26年3月15日に第4回大学院修了式が、119期生卒業証書授与式と合同で行われた。今回はじめて新しい血脇記念ホールでの実施となり、堂々とした大学院生の姿は、学生やご父兄にとっても印象深いものとなったことでしょう。修了式では代表として臨床検査病理学講座の中島 啓大学院生が田崎大学院研究科長から修了証を授与された。その後、新館11階教室に移動し、一人ひとりに修了証が授与され、矢崎同窓会長から、同窓会長賞が授与された。



東 俊文教務部長の呼名により入場



代表で修了証を授与される中島 啓 大学院生



田嶋研究科長から修了証を授与される
齊藤教子大学院生



矢崎同窓会長より同窓会長賞を授与される中島 啓
大学院生および渡部幸央大学院生



大学院生活で得たこと

大学院 4 年（臨床検査病理学講座）
中島 啓

3 月末にて東京歯科大学大学院歯学研究科を修了し、1 年間の研修医期間を挟みますが、歯学部 6 年間と博士課程の 4 年間という長い長い学生期間を卒業しました。大学院に入学した当初は、研究について無知であり右も左も分からない状態でしたが、無事に卒業することができ、充実感と達成感で一杯です。

私が本学千葉病院にて研修医をしていた時に、井上孝教授からお誘いのメールをいただいたこと、松坂賢一准教授に直接お誘いをいただいたことがきっかけとなり、臨床検査病理学講座の大学院に進学することを決めました。大学院を卒業するためには、卒業試験、国家試験の勉強が主体の学生生活と異なり、実験をして新知見となる成果を論文として世の中に発信しなければなりません。私の場合、歯の喪失が起因となる咀嚼機能障害に対して、義歯、ブリッジ、インプラントなど人工物による機能代替治療が主体で行われていることへの疑問から、より生物学的な治療技術を開発する事を目的として研究を行うことを選択しました。その過程で井上教授のご厚意により、東京理科大学の辻孝教授のご指導のもとで研究を進めることとなり、テレビのニュースや朝刊で取り上げられ

るような非常に刺激的でインパクトのある研究にも参加することができました。

しかし、研究を行うにあたり研究計画の立案、実験手技やデータの解析方法、論文の執筆まで全てが初めての経験でした。私の研究は動物への移植実験が主体であったこともあり、実験はもちろんうまくいかない事が多く、思ったようなデータが得られず何度もやめたいと思ったりしました。そんな時、様々な先生から叱咤激励を受け、実験数を増やしていきました。そして期間近でしたが、良いデータを出すことができ、なんとか大学院課程を修了し、新しい一歩を踏み出すことができいております。

学生時代は、「大学院生って何をしているのだろう」と思っておりましたが、大学院では研究というツールを用いて、仮説の設定から研究成果の発信までの一連の流れを体験できる場所であると感じました。この過程において身に付く論理的な思考と組み立ては、臨床だけでは難しく、大学院を経験しなければ会得できないでしょう。大学院時代の研究テーマは何でもよく、一連の流れを経験することが重要だと思います。本学大学院での経験を生かして今後の歯学、さらに科学の発展に携われる人物になるよう、努力して参ります。

最後になりましたが、大学院を卒業するにあたり多くのご指導をいただいた井上孝教授、東京理科大学の辻孝教授、岡山大学の大島正充助教、ならびに貴重なご意見をいただきました多くの方々へ心から御礼申し上げます。

大学院を修了して

大学院 4 年（歯科保存学講座）

山村 啓介



私は平成 21 年 4 月に東京歯科大学大学院歯学研究科に入学し、歯科保存学（歯内療法学）を専攻いたしました。歯科保存学領域の臨床を研修する中で、種々な分野に興味を持ち研究を取り組んでまいりました。特に、近年当講座で行った酸化マグネシウム系根管シーラーに関する研究結果から、新たに酸化マグネシウム系根管シーラー「MGO sealer」が発売されるに至りました。このように実際の臨床に繋がる研究ができたことは、臨床を見直す意味でも非常に良い経験になりました。一方、本研究を行う傍ら、歯科理工学講座に

も足を運び、Ti の表面処理についての研究に従事しました。この研究の成果は、「Influence of various superhydrophilic treatments to titanium on initial attachment, proliferation and differentiation of osteoblast-like cells.」と題して、Dental Materials Journal に投稿いたしました。

私の大学院生活は特に臨床に力を入れていたため、朝から夕方まで診療を行い、その後夜中まで研究をするという過酷なものでした。しかし「より自分を高めたい!」という意欲がモチベーションとなり、大学院修了に至ることができ、その経験が長い歯科医師人生を送る上で、どんな困難な状況であってもそれを乗り越える糧になると信じております。

そして、私は本学大学院の博士課程を修了したことを誇りに思い、世界でリーダーシップのとれる研究者・歯科医師として活躍し、新しい時代を創造していく覚悟があります。おごらず、弱点や間違いを素直に認め、それを乗り越えて精進したいと思っております。

最後になりましたが、これまで御指導してくださいました井出学長をはじめとする先生方、職員の皆様に対し、厚く御礼を申し上げます。

大学院修了式 懇親会開催



お世話になった先生方と記念撮影

大学院 4 年（解剖学講座） 山本 将仁

平成 26 年 3 月 14 日（金）午後 2 時より、東京ドームホテル 42 階において、大学院歯学研究

科修了式懇親会が開催されました。この会は、謝恩の意を込めてこれまでご指導頂いた先生方をお招きし、なごやかな雰囲気の中執り行われました。

大学院学生副会長の山本将仁が司会を務め、井出吉信学長のご挨拶で開会となりました。続いて田崎雅和大学院研究課長からご挨拶を頂戴した後、東俊文大学院教務部長からご挨拶、齋藤淳大学院学生部長から乾杯のご発声を頂きました。大学院課程を修了した大学院生は、本学の助教やレジデント、ポストドクトラル・フェローとなる者、歯科医院勤務や他大学に行く者など進路は様々ですが、4年間の大学院生活を振り返りながら、改めてご指導頂いた先生方との懇親を深めました。

そして最後に、大学院学生会長の山村啓介（歯科保存学講座）の挨拶をもって閉会となりました。この挨拶を聞きながら、4年間という貴重な時間を研究中心に過ごせたことを誇りに思い、

今後は世界でリーダーシップをとる研究者、歯科医師、そして教育者として活躍できるよう修了者一同心に誓いました。



ドームホテル 42 階から望む水道橋キャンパス



井出学長のご挨拶



吉成教授と

学位論文題名（平成 25 年度）

	学位記番号	氏名	学位論文題名
1	2018 号 (甲 1254 号)	佐藤 絵美子	Detecting signs of dysphagia in Alzheimer's disease with oral feeding in daily life
2	2019 号 (甲 1255 号)	野口 拓	A Site-Specific Comparison of the Trabecular Structure in Senescence-Accelerated Mice—Evaluation of Time-Course Changes in Bone Architecture using <i>in vivo</i> micro-CT—
3	2022 号 (甲 1256 号)	山本 将仁	Desmin and S100 expression during embryonic development of the lateral pterygoid muscle in mice
4	2023 号 (甲 1257 号)	青木 謙典	Association between the variable number of tandem repeat polymorphism in the third exon of the dopamine D4 receptor gene and sensitivity to analgesics and pain in patients undergoing painful cosmetic surgery
5	2024 号 (甲 1258 号)	吉澤 佑世	Wnt3A positively and negatively regulates osteoblast differentiation of human periodontal ligament cells
6	2025 号 (甲 1259 号)	安田 博光	Osteogenic effect of fluvastatin local-administration using a fluvastatin-gelatin complex in senile osteoporosis model rats
7	2026 号 (甲 1260 号)	征矢 学	Plasma membrane stretch activates transient receptor potential vanilloid and ankyrin channels in Merkel cells from hamster buccal mucosa

	学位記番号	氏名	学位論文題名
8	2027号 (甲1261号)	小林弘史	Interleukin-1 β and 6-induced calcium channel current modulation in MC3T3-E1 cells
9	2028号 (甲1262号)	大平真理子	Evaluation of Screening System by Mann Assessment of Swallowing Ability (MASA) for Dependent Elderly with Dysphagia
10	2029号 (甲1263号)	原 舞	Wear performance of bovine tooth enamel against a translucent TZP after different surface treatments
11	2030号 (甲1264号)	和泉佐知	Antimicrobial Effect of the Water Containing Organic Acids on Oral Microbes Attached to Acrylic Resin Denture Base
12	2031号 (甲1265号)	岡田玲奈	Effect of changes in end-tidal carbon dioxide tension on oral tissue blood flow during dexmedetomidine infusion in rabbits
13	2032号 (甲1266号)	山村啓介	Influence of various superhydrophilic treatments to titanium on initial attachment, proliferation and differentiation of osteoblast-like cells
14	2033号 (甲1267号)	前納允	Remifentanyl is a suitable concomitant agent for propofol during dental outpatient anaesthesia
15	2034号 (甲1268号)	辻 将	Biocompatibility of a titanium dioxide coating method for denture base acrylic resin
16	2035号 (甲1269号)	西宮紘子	N-acetyl cysteine erases cellular damage and oxidative stress by PMMA on oral epithelial cells
17	2036号 (甲1270号)	渡部幸央	Copy number increase of <i>ACTN4</i> is a prognostic indicator in salivary gland carcinoma.
18	2037号 (甲1271号)	諸星貴大	Micro-CT analysis for morphological changes of mandible from unilateral bite elevation in growing rats
19	2038号 (甲1272号)	宮井友理	Functional characterization of Dentipain of <i>Treponema denticola</i>
20	2039号 (甲1273号)	小林史明	Desmin and vimentin expression during embryonic development of tensor veli palatini muscle in mice
21	2040号 (甲1274号)	久木留宏和	Continuous postoperative pain control using multiple-hole catheter after iliac bone grafting -A comparison between ropivacaine and levobupivacaine-
22	2041号 (甲1275号)	岸本敏幸	Effect of topical anesthesia using an adhesive patch and an anesthetic solution evaluated with trigeminal somatosensory evoked potentials

	学位記番号	氏名	学位論文題名
23	2042号 (甲1276号)	小 船 和 弘	Influence of plasma and ultraviolet treatment to zirconia on initial attachment of human oral keratinocytes -Expressions of laminin γ 2 and integrin β 4
24	2043号 (甲1277号)	栗 原 絹 枝	Expression of BMI1 and ZEB1 in epithelial-mesenchymal transition of tongue squamous cell carcinoma
25	2044号 (甲1278号)	守 源太郎	Scgb1a1, Lpo and Gbp2 is Characteristically Expressed in Rat Peri-Implant Epithelium.
26	2045号 (甲1279号)	齊 藤 教 子	Involvement of LuxS in biofilm formation by <i>Campylobacter jejuni</i>
27	2046号 (甲1280号)	金 美 良	Biomechanical three-dimensional finite-element analysis of maxillary prosthodontic reconstruction using implants after maxillary resection
28	2047号 (甲1281号)	原 睦 喜	Effects of varying fixed lingual apex positions on tongue pressure during straw drinking
29	2048号 (甲1282号)	中 島 啓	Development of a functional bio-hybrid implant utilising bioengineering technology
30	2049号 (甲1283号)	田草川 舞	3D characteristics of craniofacial morphology based on computed tomography in adult female Japanese patients with skeletal mandibular prognathism
31	2050号 (甲1284号)	齋 藤 裕 香	Change in Dentition over 20 Years from Third Decade of Life in Untreated Angle Class I Malocclusion
32	2051号 (甲1285号)	門 田 和 也	Effect of Low-intensity Pulsed Ultrasound (LIPUS) with Different Frequency on Bone Defect Healing
33	2052号 (甲1286号)	木 所 亮	A comparative study of 4-META/MMA-TBB resin and cyanoacrylate on the effect of wound healing on skin defect.
34	2053号 (甲1287号)	額 賀 智 之	Characterization of bacteriocin-like protein and transporter in <i>Treponema denticola</i>
35	2054号 (甲1288号)	成 松 慶之郎	Effect of clenching with mouthguard on head acceleration during soccer heading

※題名は、学位論文審査時のもの

編集後記

大学院だより 9 号は修了式を特集いたしました。移転後初めて水道橋での修了式と卒業式でしたが、学生部長の佐藤教授のきめ細やかなご配慮により、滞りなく式を終了することができ、大学院関係者一同、ほっとしました。修了生たちには輝かしい未来が待っていることでしょう。これからも東京歯科大学そして歯科医学の発展のために一人ひとりが力を発揮してくれることを願っています。

(齋藤 記)



